

日蓮大聖人御書全集

えんどうさえものじょうごしよ

遠藤左衛門尉御書

新版
1773

えんどうさえもんのじようごしよ

遠藤左衛門尉御書

ぶんえい

ねん

がつ

にち

さい

えんどうさえもんのじよう

文永11年('74)

3月12日

53歳

遠藤左衛門尉

にちれん

たびしやめん

こうむ

かまくら

のぼ

そうろう

わ

むかし

日蓮、この度赦免を被り、鎌倉へ登るにて候。「我が昔

ねが

いま

まんぞく

とし

の願いしところのごときは、今、すでに満足しぬ、この年

あ

えんどうのおんはぐく

な

いのちなが

に当たるか。遠藤殿御育み無くんば、命永らうべしや。

しやめん

あず

にちれんいちだい

ぎようく

さ

また赦免にも預かるべしや。日蓮一代の行功は、ひとえに左

えもんどのとうあそ

そうろう

おんきよう

てん

もろもろ

どうじ

衛門殿等遊ばし候ところなり。御経に「天の諸の童子

きゆうし

とうじよう

くわ

どく

がい

は、もって給使をなさん。刀杖も加えず、毒も害すること

あた

そうら

あ

がた

おんきよう

能わじ」と候えば、有り難き御経なるかな。

さえもんのどの　ぼんてん　しゃくてん　おんつか

しかれば、左衛門殿は梵天・釈天の御使いにてまします

りようぜん　けいやく　はん　まい　そうろう　ひとなが　みらい

か。靈山への契約にこの判を参らせ候。一流れは未来へ

たも　たま　りようぜん　にちれん　にちれん　よ　たま

持たせ給え。靈山において「日蓮、日蓮」と呼び給え。そ

とき　おんむか　まか　い　そうろう　かまくら　もう　まい

の時、御迎えに罷り出ずべく候。なおまた鎌倉より申し進

そうろう

らすべく候なり。

ぶんえいじゅういちきのえいぬさんがつじゅうににち

文永十一甲戌三月十二日

えんどうさえもんのじょうどの

遠藤左衛門尉殿

にちれん

日蓮